

5年 1学期【算数】 主な評価規準

江戸川区立第二葛西小学校

単元	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
整数と小数	整数、小数はともに十進位取り記数法のしくみで表されていることがわかる。 整数や小数を10倍、100倍、1000倍、 ・ 1/10、1/100、1/1000にしたとき的小数点の移動のしかたがわかる。 小数も0~9までの10個の数字と小数点を使って表せることがわかる。	整数も小数も同じ十進数として、統合的に捉えることができる。 ・ 0~9の10個の数字と小数点を使って、いろいろな大きさの小数を考え、表すことができる。	小数点の移動によって、いろいろな大きさの数ができることを理解し、整数や小数でいろいろな大きさの数をつくらうとする。
直方体や立方体の体積	体積の用語とその意味、単位cm^3を知り、それを用いて体積を表すことができる。 直方体や立方体の求積公式を理解し、体積を求めることができる。 ・ 大きな体積の単位m^3を知り、適切に単位を選んで体積を求めることができる。 体積の単位に関連して、$1\text{L}=1000\text{cm}^3$、$1\text{mL}=1\text{cm}^3$、$1\text{m}^3=1000\text{L}$の関係がわかる。 内のり、容積の用語とその意味を知り、容積を求めることができる。	直方体や立方体の体積を求める公式をつくることができる。複合図形の体積の求め方について、直方体や立方体に分割するなどして、工夫して考えることができる。	体積の意味や単位を知り、図形の体積の求め方や身の回りにあるものの体積を考えようとする。
比例	比例の用語とその定義がわかる。 ・ 比例する2つの量のもう一方の値を求めることができる。	伴って変わる2つの数量が比例関係にあるかどうかを、表などに表して判断することができる。 ・ 比例関係を数直線図を使って、問題解決することができる。	伴って変わる2つの数量の関係をもとに、数値を変えて変化や対応の特徴を考察しようとする。

小数のかけ算	乗数が小数の場合でも乗法が用いられることを数直線図などを用いて理解し、立式することができる。 乗数が小数の場合の計算原理や計算方法を理解し、筆算で計算することができる。 小数×小数の乗法のしくみを理解し、積の小数点の位置を定めることができる。 小数の乗法について、乗数の大きさから、被乗数と積の大小関係を判断することができる。 辺の長さが小数の場合でも、面積や体積の求積公式が使えることがわかる。 小数の場合でも、乗法の交換法則や分配法則、結合法則が成り立つことがわかる。	乗数が小数の場合でも乗法が用いられることを数直線図などを用いて理解し、整数と同じ考え方で捉えることができる。小数の乗法を使って、適用問題を解くことができる。	既習事項や生活などの経験を振り返り、それを活用したり関連付けたりして小数の乗法を考えようとする。
小数のわり算	除数が小数の場合でも除法が用いられることを数直線図などを用いて理解し、立式することができる。 除数が小数の場合の計算原理や計算方法を理解し、筆算で計算することができる。 小数の除法について、除数の大きさから、被除数と商の大小関係を判断することができる。 小数÷小数で、あまりの意味と大きさを理解し、商とあまりを求めることができる。 小数÷小数で、商を四捨五入して、上から2けたまでの概数で求めることができる。	除数が小数の場合でも除法が用いられることを数直線図などを用いて理解し、整数と同じ考え方で捉えることができる。 小数の除法を使って、適用問題を解くことができる。	既習事項や生活などの経験を振り返り、それを活用したり関連付けたりして小数の除法を考えようとする。
小数の倍	小数倍を理解し、除法を使って小数倍を求めることができる。 ある数量の小数倍の大きさを求めるときには、小数の乗法が用いられることがわかる。 小数倍を理解し、除法を使って、もとにする量を求めることができる。	小数倍は、もとにする量を1としたときの比べられる量の大きさを表していることがわかる。 もとにする量、比べられる量、小数倍の関係をもとに、問題を解くことができる。	既習事項や生活などの経験を振り返り、それを活用したり関連付けたりして小数倍について考えようとする。

合同な図形	図形の合同の意味がわかる。 合同な図形の対応関係を理解し、合同かどうかの判別ができる。 合同な三角形の3つのかき方がわかる。 合同な三角形や四角形をかくことができる。	平行四辺形やひし形などの四角形に対角線をひいてできる三角形について、合同かどうか調べることができる。 合同な三角形の作図のしかたを、作図に必要な要素をもとに説明することができる。 合同な三角形の作図のしかたをもとに、合同な四角形の作図のしかたを考えることができる。	2つの図形が合同であるかどうかの条件をみつけようとするを通して、図形の性質を考えようとする。
図形の角	三角形、四角形の内角の和が、それぞれ 180° , 360° であることがわかる。 五角形、六角形や多角形の用語とその定義がわかる。 内角の和を用いて、図形の示されていない1つの角の大きさを計算で求めることができる。 多角形を三角形に分けて、内角の和を求めることができる。	三角形の内角の和から、四角形や多角形の内角の和の求め方を考えることができる。 同じ形の四角形の敷き詰めを通して、敷き詰められる理由を考えることができる。	基本的な図形の性質をもとに多角形の内角の和について、筋道立てて考えようとする。